

1 1 就農体験談

雇用就農編



かわいい豚に魅せられ養豚会社へ就職しました！

多古町 桑原 美空さん

桑原さんは幼い頃から動物が好きで、高校、千葉県立農業大学校では畜産を専門に学びました。中でも豚の可愛らしさや魅力に惹かれ、養豚の仕事に携わりたいという思いを強め、大学時代インターンシップで訪れた株式会社ジェリービーンズへ就職しました。充実した研修制度や若手が活躍できる風通しの良い環境の中で、命を預かる責任とやりがいを感じ、養豚のプロフェッショナルを目指して日々経験を積み重ねています。

●会社に入って感じた事

学校では豚を健康に育てることや管理方法を学ぶことが中心でしたが、会社ではそれに加えて「経営」という視点があることを知りました。何百、何千頭という規模での管理では、一頭一頭の体調や成長具合が農場全体の生産性や経営に大きく影響するため、日々の観察や早期発見・早期対応の重要性を強く実感しました。また、命を預かっているという責任をより強く感じられるようになり、命を無駄にしないために自分ができることを常に考えながら働いています。



●担当している仕事

入社後3年間はストールで母豚の種付けや妊娠中の健康管理、発情確認など、繁殖に関わる管理を担当していました。4年目からは分娩舎に異動し、分娩前後の母豚の状態確認や必要に応じて分娩介助、生まれた子豚が初乳をしっかりと飲んでいるか、健康に育っているか等を細かく観察しています。また、会社では定期的に経営方針発表会を行い、各部署の課題や改善策を共有しています。現場の意見も積極的に取り入れられるため、自分の提案がより良い環境づくり、会社につながることにやりがいを感じています。

●今感じている課題、目標

現在の課題は、分娩舎での仕事を一人で正確に判断し、対応できるようになることです。

分娩舎では分娩前後で母豚の状態が短時間のうちに大きく変化するため、より細かな観察力と判断力が求められます。特に、分娩後3日間は母豚・子豚ともに体調が変化しやすく、事故や体調不良が起こりやすい時期のため、一頭でも多くの母豚と子豚の命を守れるようになることが目標です。今後は離乳舎など他の部署も経験し、養豚全体の流れを理解した上で会社を支えたいです。畜産の3K（きつい・汚い・臭い）のイメージも変えていきたいと思っています。



●雇用就農を目指す方へ

最初は分からないことばかりでしたが、先輩に教わりながら少しずつできることが増え、自分の成長を実感しています。失敗も貴重な経験として積み重ねながら成長できることが雇用就農の大きな魅力だと感じています。農業は大変な仕事ですが、その分やりがいや達成感も大きい仕事です。興味がある方はぜひ一歩踏み出して挑戦してみてください。

求められるものを作り、応えていきたい！

市原市 花見 健太郎さん



元サラリーマンの花見さんは、地元市原市の里山団体等の活動で若い人がいないことを知り、地元で活気を取り戻したいと思い模索する中で、自身に障害があるため時間の自由が利く農業が向いているのではと考え、露地野菜で就農することを決めました。実家には農地があったものの親は農業に関わっておらず、地域の先輩農家、県の普及指導員やＪＡのアドバイスを参考に、何度も試行錯誤を重ね、栽培技術を身につけていきました。

自分のペースで農業と向き合いながら、人との繋がりを大事にし、地域に根差しつつ、新しいことにも積極的に挑戦を続けています。

●就農時に苦労したこと

この地域は水稻が盛んで露地野菜の代表品目がなく、品目を決めるのに悩みました。そのため、ＪＡから提案された品目はとにかくなんでも作ってみました。しかし、研修をせずに就農したため、技術や知識不足から満足に野菜を育てられず、収穫まで至らないことが何度もありました。さらに、一反（約 10a）規模での栽培も初めてで、栽培管理や販売の全体像がつかめず、何をどうすればいいのか全く分からない状態になりました。規模を大きくすれば経費が増えるが売上を確保するまでの技術もなく、その不安から規模拡大に踏み込めずにいました。

また、土地探しでは地域には田ばかりで畑が少なく、遊休農地の田を借りて自らショベルカーで水を抜く水路を掘り、土を入れて畑にする作業が大変でした。

●現在の経営について

現在「はなファーム」ではいろいろな品目を栽培していますが、主にブロッコリーを 3 ha、きゅうりを 30a 栽培しています。地元の小さな直売所から始めた販売先は、普及指導員から紹介された農家と知り合ったことにより、大手スーパーとの取引にも広がりました。収量の安定に課題はあるものの、就農 8 年目にしようやく軌道に乗り始めたと感じています。

経営は私と妻、短時間勤務の近隣の大学の女子サッカー部員も含めたパート 14 名で行っており、全員が一緒に参画している意識を持ってもらえるよう、やってもらう仕事を限定せず、収支まで情報を隠さず共有し、みんなが働きやすい環境づくりを大切にしています。

●今後の展望について

取引先に安定して商品を届け、売上をのばしたいです。現在の取引先に加え、新たに飲食店から加工用野菜が欲しいと要望を受けていますが、自社の生産量だけでは足りません。そこで、生産体制を整え安定した量を確保できるように知り合いの農家に参加を呼びかけています。加工用は選別・出荷の手間が少なく効率的なので、今後はこうした出荷も増やし売上に結びつけたいです。今後はみんなが持ち寄れる加工用野菜の「生産組合」を立ち上げたい。若い世代から地域を盛り上げ、この地を守り次世代へつないでいきたいと思っています。

●新規就農を目指す方へ

こだわりすぎず、人の話に耳を傾け取り入れること、目先だけでなく視野を広く持ってチャレンジしてもらいたいです。また、私が人との繋がりで販売先が広がっていったこともあり、人との繋がりは大切にしたいと思っています。さらに、独立前に研修を受け、自分に合う作物を見つけることをおすすめします。雇用就農で農業の厳しい部分を含め、実態を学ぶのもいいと思います。



非農家からの挑戦 雇用から独立へ

山武市 大館 秀純さん



東京都出身の大館さんは、幼いころの家庭菜園で野菜を育てる楽しさと自分で作った野菜の美味しさを知り、農業に関心を持ちました。その後分子生物学の研究職に就きましたが、子どものころから抱いていた農業への道を実現すべく、数年間資金を貯めながら 40 代でインターネットで見つけた埼玉県農業法人で農業研修を受講、いろいろ見聞きする中でネギ栽培に可能性を感じ、雇用就農を経て農地中間管理機構から紹介された山武市で令和元年に独立就農しました。

今では大館さんの人柄や仕事に取り組む姿が地域からの信頼を得て、規模拡大に向けて研究職時代に培った科学的な視点や仮説検証力をもとに、順序立てて考え、工夫しながら農業に取り組んでいます。

●就農時に苦労したこと

一番苦労したのは作業場の確保でした。畑を借りてから約 2 年間は作業場が見つからず、アパートで一人で出荷作業の皮むきをしていたので出荷量が上がりませんでした。二番目は栽培技術・管理です。雇用就農で 3 年ほどネギ栽培に携わり、任される作業をこなして一連の流れを分かったつもりでしたが、実際に自分でやると連作障害や排水対策など、やってみないと分からないことが次々として出てきて大変でした。周りの農家に聞いたりしながら解決しましたが、技術と経験不足、判断時の責任の重さを痛感しました。また、令和 6 年に補助金を使ってネギ掘り機を導入したことで一日当たりの出荷量が 1.5 倍に増え、作業も楽になりましたが、今思えば補助金制度も、もっと早く知っていればよかったなと感じています。

●現在の経営について

長ネギ専作で年間 55a を栽培し、全量を J A に出荷しています。根や葉を取るなどの出荷調製作業を近所の方一人にパート従業員としてほぼ通年で手伝ってもらっていて、時々、80 代のおばも手伝ってくれ助かっています。規模を拡大している割には資材費の高騰もあり収益が思うように出ていないのが課題ですが、今後、今よりも機械操作に慣れることで作業効率が上がり、出荷量も 2 倍にあがると見込んでいます。

●今後の展望について

経営をより安定させるため、規模の拡大とともに雇用の増加を目指します。作業を任せられる人を増やし、畑の管理も含めた体制を整えることで、働く人が無理なく仕事をできる環境をつくりたいです。また、将来的には法人化も視野に入れており、経営を安定させながら、後継者育成の土台づくりも進めたいと考えています。さらに、今後販路を広げていく中で、他の農家の取り組みを参考にしながら、輸出にも挑戦したいと思っています。

●新規就農を目指す方へ

研修と自己資金の準備はしたほうがいいです。

研修は短期間でなく、2 年ほど雇用就農して実際に現場で働き、技術の習得と体力的にも自分が農業に向いているかを知ることがとても大切です。現場では作業だけでなく、雇用先によっては経営の流れも学べます。自己資金は、思い描く農業をするために必要です。また、資金の有無に関わらず、積極的に補助金制度を活用することをおすすめします。



リピーターを育てる農園づくり

神崎町 牛嶋 友哉さん



飲食業界で約 20 年間調理担当として経験を積み、料理長も務めた牛嶋さん。実家が農家である妻との結婚を機に農業に興味を持ち、千葉県立農業大学校農業研修科へ入学しました。そこで新規就農でもいちご栽培に挑戦できることを知り、在学中に指導農業士のもとで半年間研修を受け、農地との良い巡り合わせにも恵まれ、いちご農園を開園しました。

前職で培った衛生管理や接客、お客様目線のサービスへの意識を農業経営に活かし「また来たい」と感じてもらえる農園づくりに取り組んでいます。その積み重ねが評価され、観光体験予約サイト「じゃらん」ではリピート率全国 1 位を獲得。お客様はもちろん、地域との繋がりも大切にしながら、多くの人に愛される農園を目指して挑戦を続けています。

●就農時に苦労したこと

研修を修了した年にいちご農園を開園すると決めたため、限られた時間の中で準備を進めることが大変でした。いちご栽培は5月中旬頃までに苗を確保する必要があり、研修先で間借りさせていただき苗を育てました。また、認定新規就農者の申請、日本政策金融公庫からの資金調達、ハウスの設計・建設などをすべて逆算して同時並行で進めました。少しでも手続きが遅れば開園に間に合わない状況だったため、行政や資材業者と密に連携しながら、一つひとつ準備を進めていきました。

開業当初は農園の認知度が低く、良いいちごを作ってもなかなか販売に繋がらなかったことも悩みでした。そこで、隣接する道の駅「発酵の里こうざき」で試食会を行ったり、開業当初から作成したロゴマークを商品に付けることや販売するパックの大きさを変えるなど、お客様の印象に残る工夫を重ね、少しずつファンを増やしていきました。

●現在の経営について

ハウス6棟で毎年6～7種類のいちごを栽培し、いちご狩りに加え、隣の道の駅でいちごを販売しています。いちご狩りの営業時には、私と妻に加え、前職で接客に定評のあったスタッフ2人にも協力してもらっています。現在就農して9年目ですが、4年目ごろから軌道に乗り始めました。それまでは売上よりも常連のお客様を増やすことを優先にし、品質の高いいちごだけを販売するなど農園のブランドづくりに取り組んだ結果、口コミや SNS を通じてリピーターが増え、現在ではいちご狩りの予約開始と同時に予約が埋まる日が多くあります。

●今後の展望について

規模拡大よりも、現在の経営をより充実させることを目指しています。栽培では単収の増加を目標に、株間を見直すことで栽植本数を増やす取組をしています。また、毎年品種の見直しを行い、自園の環境に適した品種を選定しています。定番品種を大切にしながら、新しい品種も取り入れることで、リピーターのお客様にも新たな楽しみを提供し、より満足度の高い農園づくりを進めていきます。

●新規就農を目指す方へ

作る技術だけでなく「どう売るか」を最初に考えることが大事だと思います。どれだけ良い農産物を作っても、売り先や価格設定などの方針が決まっていなければ経営は成り立ちません。地域の需要や自分の強みを見極め、固定観念に縛られず、状況に合わせて柔軟にいろいろ試行錯誤したほうがいいです。また、地域との信頼関係を築くことは農業を続けるうえで欠かせません。「農業をやりたい」という気持ちだけでなく、地道な努力や苦労も理解したうえで、挑戦して欲しいと思います。



1 2 新規就農に係る相談窓口

就農希望地域が未定・就農全般について相談したい・雇用就農を検討している

① 【総合相談窓口】

千葉県農業者総合支援センター ☎ 0800-800-1944（フリーアクセス）
 千葉市中央区本千葉町 9-10 千葉県 JA 情報センタービル 1F
 ホームページ：<https://support.chiba-agri.com/farmer/about/>
 問合せ：お電話又はホームページ内のお問合せフォームよりご相談ください



② 千葉県農林水産部担い手支援課 就農支援班 ☎ 043-223-2904

千葉市中央区市場町 1-1 千葉県庁本庁舎 17 階
 ホームページ：<https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/soudan/shuunou.html>
 問合せ：お電話でご相談ください



③ 公益社団法人千葉県園芸協会 ☎ 043-223-3008

千葉市中央区市場町 1-1 千葉県庁南庁舎 9 階
 ホームページ：<https://www.chiba-engei.or.jp/>
 問合せ：お電話又はメール（sanchisc@chiba-engei.or.jp）でご相談ください



④ 一般社団法人千葉県農業会議 ☎ 043-223-4480

千葉市中央区市場町 1-1 千葉県庁南庁舎 9 階
 ホームページ：<https://chinokai.com/>
 問合せ：ホームページ内のお問合せフォームよりご相談ください



就農希望地域が決まっている・就農計画の相談をしたい・親元就農を検討している

- | | |
|----------------------------|--|
| ① 千葉 農業事務所 ☎ 043-310-3026 | 千葉市花見川区幕張町 5 丁目 417-24
(千葉市・習志野市・市原市・八千代市) |
| ② 東葛飾 農業事務所 ☎ 04-7143-4121 | 柏市高田 990-1
(市川市・船橋市・松戸市・野田市・柏市・流山市・我孫子市・鎌ケ谷市・浦安市) |
| ③ 印 旛 農業事務所 ☎ 043-483-1129 | 佐倉市鎭木仲田町 8-1
(成田市・佐倉市・四街道市・八街市・印西市・白井市・富里市・酒々井町・栄町) |
| ④ 香 取 農業事務所 ☎ 0478-52-9192 | 香取市佐原イ 92-11
(香取市・神崎町・多古町・東庄町) |
| ⑤ 海 匝 農業事務所 ☎ 0479-62-0156 | 旭市ニ 1997-1
(銚子市・旭市・匝瑳市) |
| ⑥ 山 武 農業事務所 ☎ 0475-54-1122 | 東金市東新宿 1-11
(東金市・山武市・大網白里市・九十九里町・芝山町・横芝光町) |
| ⑦ 長 生 農業事務所 ☎ 0475-22-1751 | 茂原市茂原 1102-1
(茂原市・一宮町・睦沢町・長生村・白子町・長柄町・長南町) |
| ⑧ 夷 隅 農業事務所 ☎ 0470-82-4956 | 夷隅郡大多喜町猿稻 472-2
(勝浦市・いすみ市・大多喜町・御宿町) |
| ⑨ 安 房 農業事務所 ☎ 0470-22-7131 | 館山市北条 402-1
(館山市・鴨川市・南房総市・鋸南町) |
| ⑩ 君 津 農業事務所 ☎ 0438-25-0107 | 木更津市貝渚 3-13-34
(木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市) |



ちばの大地で農業を始めたい人の手引書—令和8年度版—

発行 令和8年8月

編集 千葉県

農業経営・就農支援センター（千葉県）

〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1

電話 043-223-2904

本冊子は、「農業経営・就農支援体制整備推進事業」を活用して作成しました。